

Ⅱ 暮らしの向上

1 健康づくりの推進

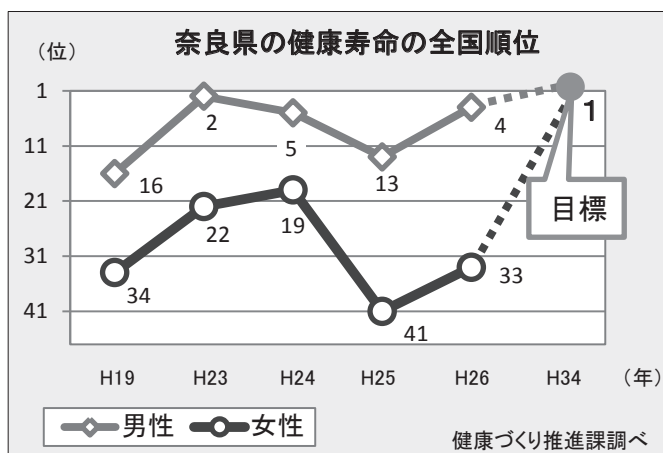
主担当部局(長)名
健康福祉部長 土井 敏多

目指す姿

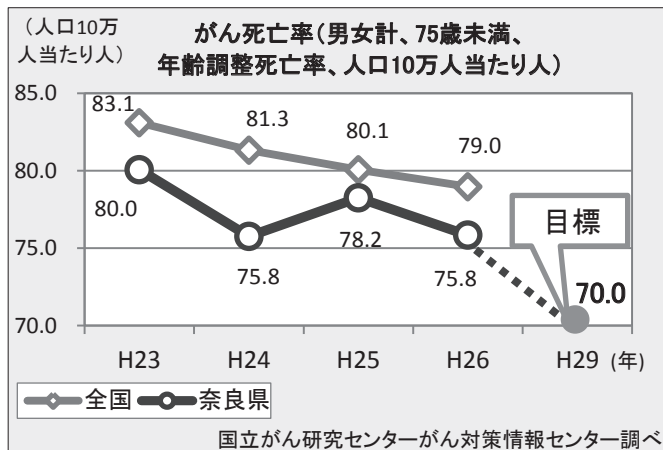
県民が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らしながら、要介護となる人や若くして亡くなる人を減らし、健康寿命の延長が図られる健康長寿県を目指します。

関係部局(長)名:医療政策部長 林 修一郎、くらし創造部長 中幸司、教育長 吉田 育弘

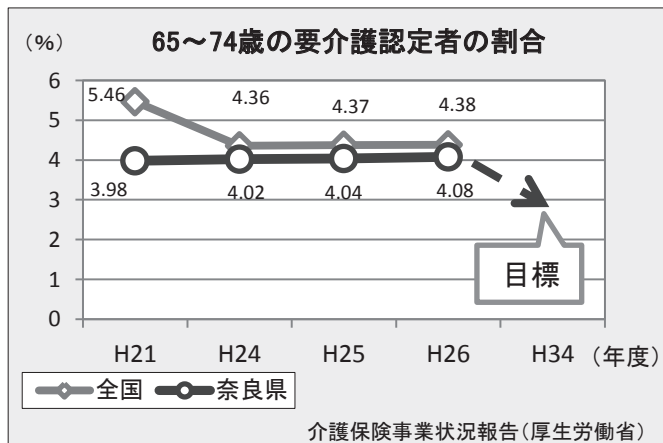
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成34年度までに、県民の健康寿命(65歳平均自立期間)を男女とも日本一にします。(H25年男性:13位、女性:41位)
取組	健康寿命の延長に寄与する健康行動につながるよう、減塩教室、禁煙支援リーフレットの普及、健康ステーションの運営、市町村と協働したがん検診受診率向上等の取組を行いました。
成果	平成26年の健康寿命の順位は、男性4位、女性33位で、平成25年に比べ上昇しました。

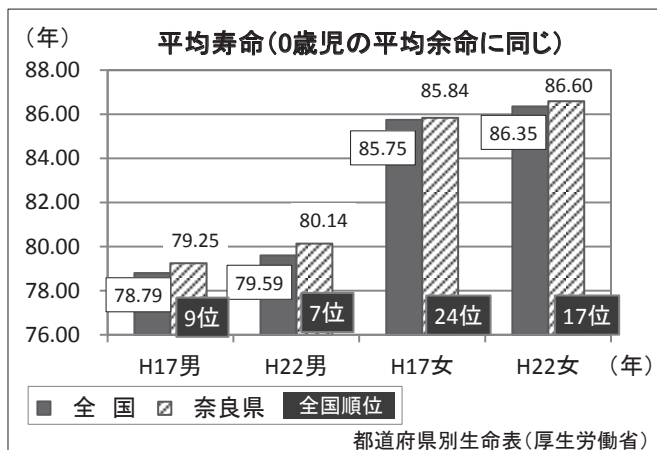
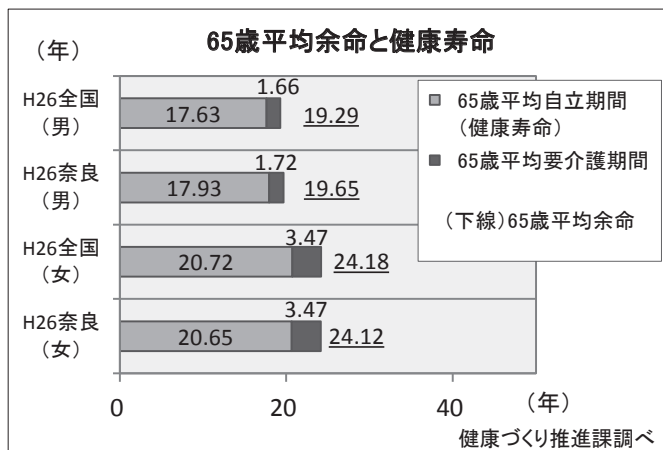


目標	平成29年度までに、がん死亡率を70.0に減らします。(75歳未満、年齢調整死亡率、人口10万人当たり)(H23年:80.0)
取組	個別受診勧奨・未受診者再勧奨によるがん検診受診率向上の取組や、禁煙支援リーフレットの活用などによるたばこ対策の推進を行いました。
成果	平成26年のがん死亡率(75歳未満、年齢調整死亡率、人口10万人当たり)は75.8で、平成25年に比べ2.4ポイント減少しました。



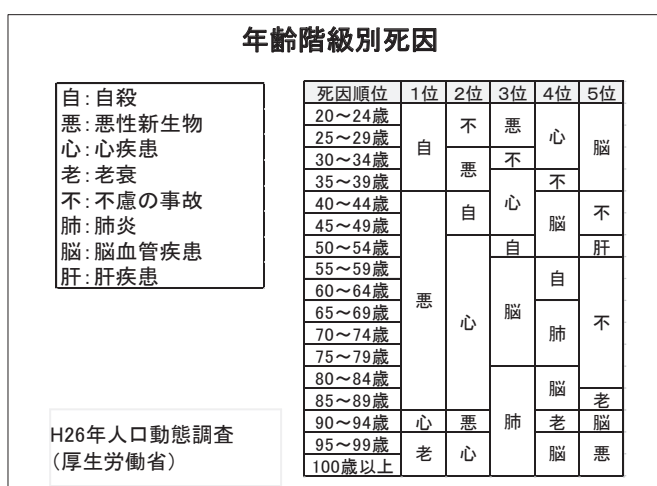
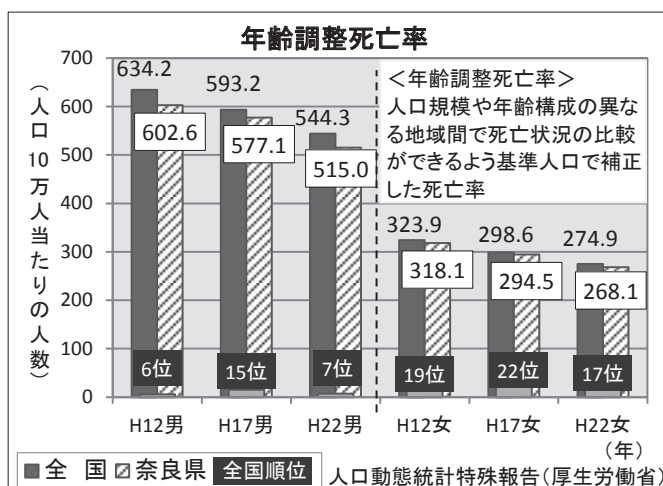
目標	平成34年度までに65～74歳の要介護認定者の割合を減らします。(H24年度末:4.02%)
取組	市町村において住民が主体的に運営し、体操等を行う「通いの場」づくり等、介護予防活動の推進に取り組みました。
成果	平成26年度の65～74歳の要介護認定者の割合は4.08%と、平成25年度の割合を維持しました。

2. 現状分析



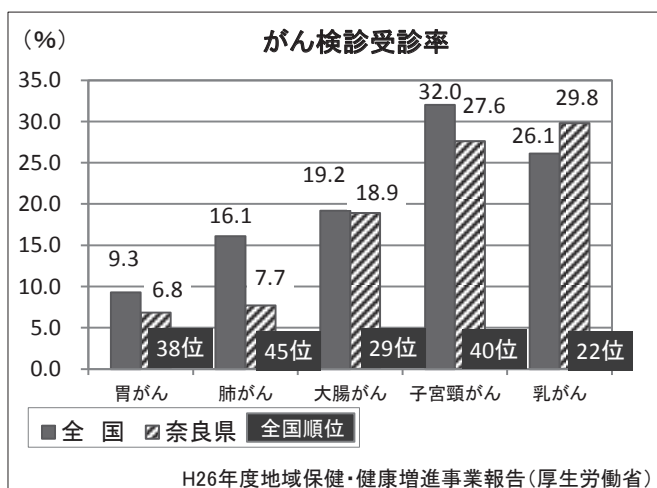
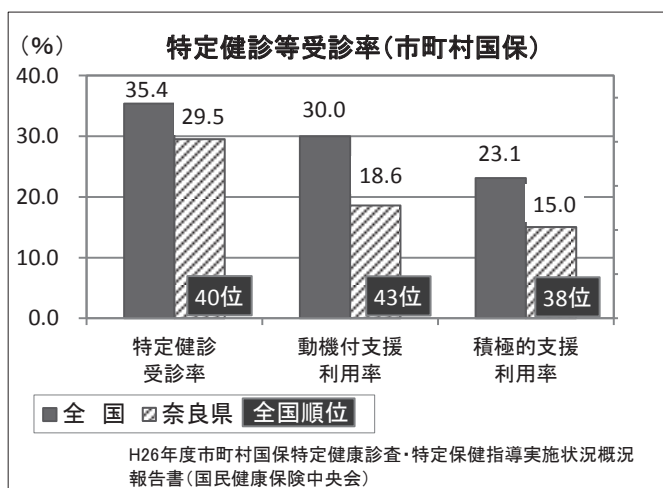
平成26年の65歳平均余命は、男性が19.65年、女性が24.12年となっています。そのうち健康寿命の占める割合は、それぞれ91.2%、85.6%であり、男女とも全国平均よりやや低いです。

平成22年の平均寿命は男女とも全国平均以上です。



年齢調整死亡率は、男性、女性とも平成12年より平成22年にかけて低減しました。平成22年の男性の全国順位は7位と上位です。

平成26年における全国の年齢階級別死因は、自殺が20~39歳の1位及び40~49歳の2位です。悪性新生物は40~89歳の1位です。



平成26年度における市町村国保の特定健診受診率、動機付支援利用率、積極的支援利用率は、いずれも全国平均を下まわり、低調です。

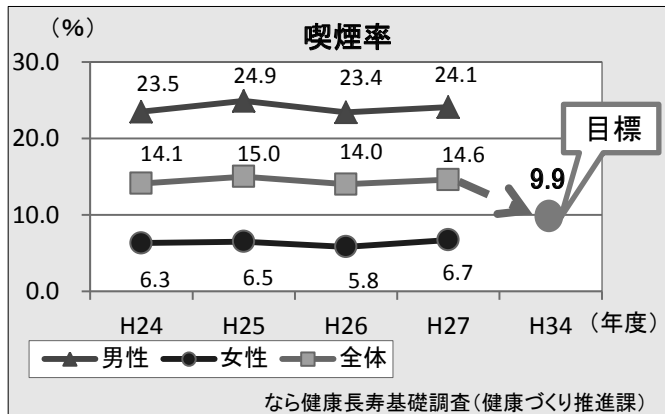
平成26年度に市町村が実施した各種がん検診の受診率は、乳がん検診を除き、全国平均以下です。特に、肺がん検診の受診率は全国45位と低調です。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

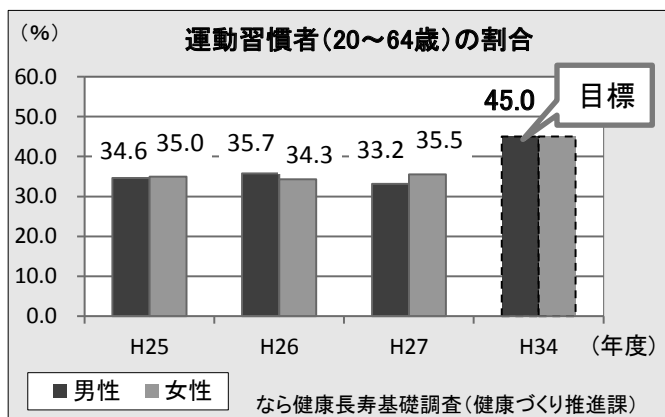
戦略1 健康寿命日本一を達成するため、健康的な生活習慣の普及を進めます。

主担当課(長)名 健康づくり推進課長 村田 理

戦略目標	①平成34年度までに、成人県民の喫煙率を9.9%に減らします。(H23年度:14.2%) ②平成34年度までに、食塩摂取量を8gに減らします。(H23年 男性:11.6g、女性:10.1g) ③平成34年度までに、運動習慣者の割合を45.0%以上にします。(H23年度:35.0%)
------	---



取組	ソーシャルマーケティングの手法を用いた禁煙支援リーフレットの活用及び効果検証、COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策予防講演会等に取り組みました。(①)
成果	禁煙支援リーフレットを13市町村に約3,900枚配布し、272人に効果検証調査を実施しました。COPD(慢性閉塞性肺疾患)対策予防講演会には、93人が参加しました。これら取組により、喫煙率は、全国的には低い水準の15.0%程度で推移しています。



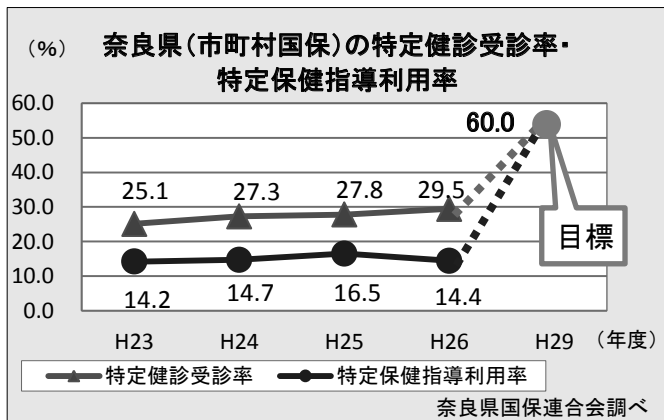
取組	健康ステーション(榎原・王寺)を拠点として、活動量計を使った健康づくりの推進を行いました。(③)
成果	平成28年3月末までの健康ステーションの延べ来場者数は、89,060人(榎原)、24,901人(王寺)、活動量計2週間体験者数は、1,640人(榎原)、973人(王寺)となっており、運動習慣者の割合は、横ばいで推移しているものの、健康ステーションの運営を通して、運動習慣の啓発に努めました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
減塩対策の推進(②)				
食育推進計画策定市町村数(市町村)[累計]	24	26	29	健康づくり推進課
運動普及の推進(③)				
健康ステーション設置数(カ所)[累計]	1	2	2	健康づくり推進課
健康寿命の延長に関する健康指標の市町村別把握と評価の実施(①,②,③)				
なら健康長寿基礎調査有効回答数(件)	6,213	5,791	6,272	健康づくり推進課

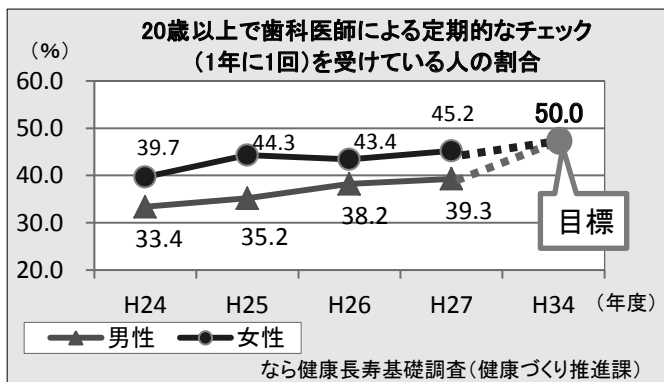
これまでの成果

- ・未成年者禁煙指導窓口を継続実施し、11名を指導しました。また、禁煙支援アドバイザー研修会を開催し、18名が参加しました。(①)
- ・子育て世代を対象に「減塩げんきフェスタ」を5回開催し、計278人が参加しました。(②)
- ・県内市町村が運営する健康ステーションの設置促進のため説明会を開催し、20市町村が参加しました。(③)

戦略目標	①平成29年度までに、特定健診受診率(国保)及び特定保健指導利用率(国保)を60%以上にします。(H23年度(国保) 健診:25.1%、保健指導:14.2%) ②平成34年度までに、20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合を男女とも50%以上にします。(H23年度 20歳以上男性:33.0%、20歳以上女性:39.6%)
------	--



取組	効果的な啓発方法を学ぶ市町村研修会を開催したり、市町村が実施する受診率向上の取組に対して県国保調整交付金により支援しました。(①)
成果	特定健診受診率は、1.7ポイント(27.8%→29.5%)増加しました。一方、特定保健指導利用率は、2.1ポイント(16.5%→14.4%)減少しました。



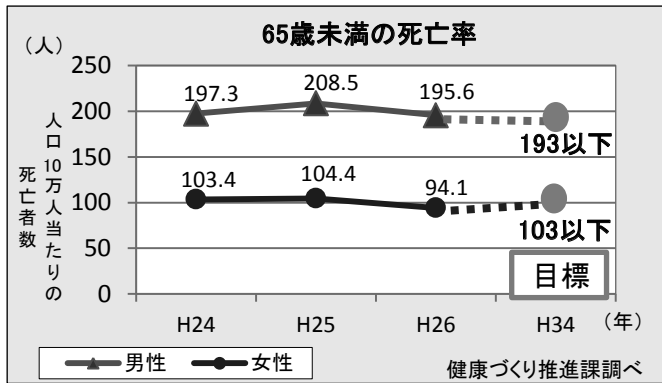
取組	なら歯と口腔の健康づくり計画に基づき、各ライフステージに応じた歯科口腔保健施策に取り組みました。(②)
成果	20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合は、男性1.1ポイント(38.2%→39.3%)、女性1.8ポイント(43.4%→45.2%)増加しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
特定健診受診及び特定保健指導利用の推進(①)				
特定健診受診率(%) [市町村国保]	27.8	29.5 (集計中)		健康づくり推進課
特定保健指導利用率(%) [市町村国保]	16.5	14.4 (集計中)		健康づくり推進課
介護予防の推進(①)				
「住民運営の通いの場(住民主体の介護予防)」実施市町村数(市町村)	7	9 (集計中)		地域包括ケア推進室
歯科口腔保健の推進(②)				
20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合(%) [男性]	35.2	38.2	39.3	健康づくり推進課
20歳以上で歯科医師による定期的なチェック(1年に1回)を受けている人の割合(%) [女性]	44.3	43.4	45.2	健康づくり推進課
県・後期高齢者医療広域連合の共同実施による高齢者の健康づくりの推進(①)				
地域巡回指導・普及啓発事業の実施回数(回)	97	99	119	保険指導課

これまでの成果

- ・受診勧奨ちらし等の見直し・作成により効果的な啓発方法を学ぶ市町村研修会を2回開催し、計96人が参加しました。(①)
- ・保健所が各市町村単位で個別に歯科口腔保健の推進に関する検討を行いました。(②)
- ・県のモデル事業として、2市1村(大和高田市、香芝市、天川村)が地域づくりによる介護予防に取り組み、住民が主体的に運営する「通いの場」が立ち上がりました。(①)

戦略目標	①平成29年度までに、がん検診受診率50%を目指します。(H25年奈良県:胃がん37.2% 肺がん35.5% 大腸がん35.8% 子宮がん39.2% 乳がん39.4% ※子宮がんは20~69歳、その他のがんは40~69歳 ※子宮、乳は過去2年の受診率) ②平成34年度までに、65歳未満の死亡率を男性193人、女性103人(人口10万人当たり人)以下に減らします。(H25年:男性208.5人、女性104.4人(人口10万人当たり人))
------	---



取組	がんは65歳未満の死因として最も多く、早期発見・早期治療につながるがん検診の受診率を高めるため、平成27年度に9市町でモデル事業(個別受診勧奨・未受診者再勧奨)に取り組みました。(①, ②)
成果	モデル事業を実施した9市町において、がん検診の受診者数は、平成25年度に比べ1.1倍~4.9倍に増加しました。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
行政、保険者、企業等の連携によるがん検診の推進(①)				
市町村が実施するがん検診受診率(%) [胃がん]	6.7	6.8 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [肺がん]	7.2	7.7 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [大腸がん]	18.1	18.9 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [子宮頸がん]	26.6	27.6 (集計中)		健康づくり推進課
市町村が実施するがん検診受診率(%) [乳がん]	28.1	29.8 (集計中)		健康づくり推進課
自殺予防啓発の推進と市町村相談機関等の人材育成(②)				
自殺予防に係る人材養成研修受講者(人)	75	37	122	保健予防課

これまでの成果

- ・「がん検診を受けよう！」奈良県民会議及び普及イベントを開催し、約600人が参加、啓発グッズを1,800セット配布しました。(①)
- ・自殺は若年層の死因順位の第1位となっていることから、帝塚山大学と連携して、「若者のこころの健康に関するシンポジウム」を開催し、学生等約100人が参加しました。(②)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

<政策目標達成に向けた進捗状況>

- ・平成26年の健康寿命の順位は、男性4位、女性33位で、平成25年に比べ上昇しました。
- ・平成26年のがん死亡率(75歳未満、年齢調整死亡率、人口10万人当たり人)は75.8で、平成25年に比べ2.4ポイント減少しました。
- ・平成26年度の65～74歳の要介護認定者の割合は4.08%と、平成25年度の割合を維持しました。

<戦略目標達成に向けた進捗状況>

- ・平成28年3月末までの健康ステーションの延べ来場者数は、89,060人(橿原)、24,901人(王寺)、活動量計2週間体験者数は、1,640人(橿原)、973人(王寺)となっており、運動習慣者の割合は、横ばいで推移しているものの、健康ステーションの運営を通して、運動習慣の啓発に努めました。
- ・特定健診受診率は、1.7ポイント(27.8%→29.5%)増加しました。一方、特定保健指導利用率は、2.1ポイント(16.5%→14.4%)減少しました。
- ・平成27年度にがん検診受診率向上のモデル事業を実施した9市町において、がん検診受診者数は、平成25年度に比べ1.1倍～4.9倍に増加しました。

<奈良県の持っている強み>

- 1 平成25年における喫煙率は男性が28.2%で、低い方から全国1位、女性が7.2%で4位と上位
- 2 橿原と王寺に設置した健康ステーションの1日平均入場者数が、それぞれ118人、65人と好調(H28年3月末時点)
- 3 平成26年の人口10万人当たりの自殺死亡率は17.1で、低い方から全国5位と上位
- 4 定期的に歯科検診を受診している人の割合が増加傾向(男性33.4%,女性39.7%(H24年度)→男性39.3%,女性45.2%(H27年度))

<奈良県の抱えている弱み>

- 5 市町村の実施するがん検診の受診率は、胃がん全国38位、肺がん45位、子宮頸がん40位(H26年度)など下位
- 6 市町村国保の実施する特定健診受診率は、全国40位(H26年度)と下位
- 7 平成24年における食塩摂取量は男性が10.8g、女性が9.3gで目標の8gより多く摂取
- 8 平成24年における野菜摂取量は、男性が266gで多い方から全国40位、女性が242gで全国46位と下位
- 9 全国より高い高齢化率が継続(本県27.8%,全国26.0%(H27年))

<奈良県への追い風>

- a 2020年東京オリンピックの影響もあり、駅や病院等の公共的な空間での全面禁煙や飲食店等での分煙が進展
- b ウォーキングやマラソン等健康づくりが全国的にブーム
- c 計測した数値を記録及び転送できる活動量計等の普及が進展
- d NDB(レセプト情報・特定健診等情報データベース),KDB(国保データベース)等、医療及び健診データベースの整備が進展
- e 「タニタ食堂」等、減塩低カロリー健康食への関心の高まり

<奈良県への向かい風>

- f 自殺者数は減少傾向にあるものの、全国で年間24,000人を超える高水準
- g 肺炎死亡が増加しており、死因別統計で平成23年に脳血管疾患を抜いて、がん、心臓病に次ぐ第3位
- h 高齢化が進展しており、平成47(2035)年に3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測
- i 高齢化の進展に伴い要介護者数が増加
- j 少子化及び高齢化の進展に伴い医療、介護を支える人材が不足
- k 高齢化の進展に伴い認知症患者数が増加

《強みで追い風を活かす課題》

- [重要課題]たばこ対策の推進(1,a)
- [重要課題]運動普及の推進(2,b,c)

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

- [重要課題]がん検診の推進(5,d)
- ・特定健診の推進(6,d)
- [重要課題]減塩・野菜摂取(食育)の推進(7,8,e)

《強みで向かい風を克服する課題》

- ・自殺対策の推進(3,f)
- ・歯科口腔保健の推進(4,g)

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

- ・高齢者の健康づくりの推進(9,h,i)
- ・地域包括ケアの推進(9,i,j)
- ・認知症対策の推進(9,k)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
<ul style="list-style-type: none"> ・運動普及の推進 ・がん検診の推進 (戦略1,3) 	市町村での積極的な取組を支援するため、がん検診受診勧奨・再勧奨及び市町村営の健康ステーション設置に要する経費を助成する補助制度を創設しました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
たばこ対策の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村以外の保険者、医療機関等を対象にして禁煙支援リーフレットのさらなる活用を図ります。 ・禁煙スタートアップ研修を開催します。 ・禁煙支援協力薬局の登録を行います。
運動普及の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康ステーションの運営により、「おでかけ健康法」の普及拡大を図ります。 ・アドバイザー派遣、運営経費の補助等により、市町村における健康ステーション設置促進のための支援を行います。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
がん検診の推進(戦略3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「がん検診を受けよう！」奈良県民会議を開催します。 ・全市町村で個別受診勧奨・未受診者再勧奨に取り組めるよう、財政的・人的支援を実施します。
減塩・野菜摂取(食育)の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する大規模調査を、奈良県で初めて実施します。 ・市町村の課題に応じた取組を支援します。

